

極早生新品種「なつひめ」の収穫作業について

令和 8 年 8 月 6 日
新潟県農林水産部

- ◎ 「なつひめ」は8月中旬頃から収穫適期を迎えます。
- ◎ 8月13～17日は気温が平年よりかなり高い（最高気温 34℃）予報となっており、胴割粒の発生が懸念されます。
- ◎ 早めに籾の状態を確認して適期に収穫するとともに、丁寧な乾燥・調製で胴割粒の発生を抑えましょう。
- ◎ 作業の際は、熱中症対策を必ず行いましょう。

【気象予報と生育の見込み】

- 気象庁の2週間気温予報では、8月13～17日は気温が平年よりかなり高い（最高気温 34℃）と予報されています。
 - 作物研究センター（長岡市）で栽培している「なつひめ」の、収穫期のめやす（出穂後積算気温が 1,000℃*となる日）は次のとおりです。
 - ・出穂期：7月 7日（移植日：4月 21日）→収穫期のめやす：8月 12日
 - ・出穂期：7月 10日（移植日：5月 1日）→収穫期のめやす：8月 15日
 - ・出穂期：7月 16日（移植日：5月 12日）→収穫期のめやす：8月 21日
- * 長岡アメダス 8月4日まで実測値、8月5～16日は天気予報、8月17日以降は平年値

【今後の管理】

収穫

- 「なつひめ」は出穂後積算気温 1,000℃をめやすに、籾の状態を早めに確認し、黄化割合が 85～90%くらいになった頃に収穫しましょう。
- 今後、高温が予想されており、胴割粒の発生が懸念されます。胴割粒の発生を抑えるため、刈り遅れないようにしましょう。

乾燥・調製

- 乾燥作業のポイント
 - ・収穫時の籾水分が低い場合や高温・乾燥条件での収穫で籾水分のムラが大きい場合は、日中は常温で通風乾燥を行い、点火は夜間等で気温が下がってから、送風温度を低めに設定（毎時乾燥速度が 0.5%以下）し乾燥しましょう。
 - ・乾燥機の2段乾燥や休止乾燥の機能を利用する等、丁寧に乾燥しましょう。
- 籾すり・選別のポイント
 - ・大粒のため、脱ぶ率が 80～85%となるようロール幅を調整し、肌ずれを防止しましょう。
 - ・選別に用いるふるい目は 1.85 mm以上とし、未熟粒の多少に応じて適切なふるい目を使用しましょう。

その他の品種

- 「なつひめ」以外の極早生品種や早生品種についても、同様に刈り遅れに注意し、丁寧な乾燥・調製作業を行ってください。

作業の際は、熱中症予防対策を必ず行いましょう。1人で作業されている方に対しては、周囲からの積極的な声掛けをお願いします。